



## 言葉の力

学校長 三瓶 徹

時が経つのは早いもので、新年度がスタートして2ヶ月が過ぎました。ササリンピック等の行事を通して子どもたちの成長を感じました。特に6年生はさまざまな活動の中で、1年生から5年生をリードしながら頑張っている姿が随所で見られ、最高学年となった自覚を感じ、とてもうれしく思いました。

さて、皆さんは「言葉」が「力」を持っているということを信じますか。日本には昔から「言葉霊（ことだま）」という言葉があり、言葉は魂を持っていると信じられてきました。「魂」ということは「心がある」ということです。私たちの口から出た言葉は、周りの人に影響を及ぼす力があるのです。

彫刻や詩をつくった人として知られている高村光太郎さんが、「きれいだなあという景色がなおきれいになる」と言ったそうです。私はこの言葉を聞いて、ますます言葉は大事だと思いました。感動したことを言葉にして伝えると、その感動を広げることができます。自分の気持ちを確認することにもなります。

きれいなものを見たときに人は感動するものです。それを自分の心の中でそっと大事にすることもあるでしょう。でも、その感動を素直に「きれい」と言葉にすると、周囲の人に伝えることができます。それは、その美しさにあまり関心のなかった周りの人にも気づかせることにもなります。また、自分の声が自分の耳に返ってきて、その美しさは、目からだけでなく耳からも入り、全身で感じ取ることができるのです。

言葉には不思議な力があります。思っているだけだと曖昧に感じることで、表現すると、確かなことになります。また、表現した言葉は自分に返ってもくるのです。だからこそ優しい思いやりのある言葉を使わなくてはならないのです。相手を傷つける言葉を言ったら、自分も傷つけていることになります。言葉の持つ影響力は大きいものです。優しい言葉は、ほかほかした温かな雰囲気をつくり出し、汚い言葉は、とげとげした殺伐とした空気をつくり出します。

高村光太郎さんが言った「きれいだなあという景色がなおきれいになる」ということを「がんばるぞ」といって、なおがんばれるようになる」とか「あなたに『きれいな字ね』って褒められたから、なお字をていねいに書くようになった」とかにかえてみたらどうでしょうか。自分で言ったこと、友だちに言われたことで、自分の心に強く訴えるものが生まれ、さらによい方向に向かっていきそうです。

たった1つの言葉によって、人は、嬉しくなったり悲しくなったりすることは、皆さんも経験していることだと思います。自分の心に感じた、明るいきれいな感情を素直に言葉に表し、皆が楽しい雰囲気の中で過ごせるようにしたいものです。自分の口から出る言葉が、大きな力を持っていることを忘れずに、言葉を大切にしたいものです。